

圃には、森林などの緩衝帯を配置することによって周辺からの影響を最小限にとどめることが必要である。国立公園の普通地域は厳重に保護されるべきエリアの緩衝帯としての位置づけがなされている。サロベツ湿原周辺には普通地域が設定されておらず、国立公園の境界間際まで草地造成が行われている。そのため、湿原地域と牧草地など改変地域とが接しており、緩衝帯となる植生帯が確保されていない。また、湿原地域の中心部であるペンケ沼周辺は特別保護地区に指定されていない。さらに、上サロベツの植生調査地でも良好なミズゴケ湿原がみられる。サロベツ湿原が多雪低地湿原で唯一本来の姿をとどめた貴重な湿原であることを考えれば、より広いエリアの保全が必要である。保留地の取り扱いも含め、公園区域・特別保護地区の見直しが必要である。

5. 2 湿原植物群落の保全

サロベツ湿原は多雪低地湿原に分類され、ミズゴケ湿原が大面积に発達した湿原である。湿原の周辺には多雪地帯に分布するクマイザサやチシマザサが生育しており、人為的排水などによる乾燥化が進行すると湿原植生へのササの侵入が起こりやすい¹⁾。現在、サロベツ湿原へのクマイザサの侵入は著しく、さらに低木類や湿原植物以外の種の侵入が各所でみられる。水位など湿原環境の回復を図ることによって湿原植生を回復させることが急務である。

自然植生の保全策は、これまでなるべく人為的影響を排除する方向で考えられてきた。しかし、周辺に十分な緩衝帯が確保できない状況下で乾燥化が進行した場合には、土木工法などによる積極的な水位調節が必要と考える。1991年には、上サロベツの特別保護地区内で総延長550mの遮水シート埋設工事が実施され、翌年の調査で地下水位の上昇が確認されている²⁾。

さらに湿原植物以外の侵入植物の強制排除を行うことによって、より効果的に湿原植生の回復が図られると考えられる。上サロベツの植生調査地にみられた泥炭採掘跡地には50年あまりを経て良好なミズゴケ湿原が回復していた。これは、地表面を掘り下げることによる相対的な水位の上昇と、乾燥化によって侵入した植物の強制排除によるものと考えられる。また、泥炭採掘が7m間隔で帯状に行うという比較的小規模なものであったため、非採掘地から湿原植物の侵入が容易で、再び定着しやすかったと考えられる。湿原植生の復元方法は確立されていないが、乾燥化は確実に進んでおり、回復過程のモニタリングを行いながら、復元試験の実施を急ぐ必要がある。

5. 3 まとめ

現在残されている数少ない湿原を生態系として保全管理するためには、緩衝帯を配置した十分なエリアの確保と、乾燥化に対する湿原植生の回復と維持のための積極的な保全策が必要である。しかし、個々の湿原はそれぞれ特有の環境条件や遷移方向を持ち、さらに周辺の開発の状況や乾燥化の程度も異なる。従って、各湿原の特性にあった適切な保全策を講じるためには、その湿原の環境条件や植生などの基礎的なデータの集積と、それに基づく復元試験やその経過のモニタリングが必要である。

6 謝 辞

植生図作成は、北海道大学の渡辺修氏に協力いただいた。道庁自然保護課、宗谷支庁及び留萌支庁林務課自然保護係の方々には多くの資料を提供していただき、また有益な助言をいただいた。深く感謝の意を表す。

参 考 文 献

- 1) 矢部和夫：北海道の湿原。「生態学からみた北海道」（東正剛・阿部永・辻井達一編），北海道大学図書刊行会，40-52（1993）
- 2) 道北地方地学懇話会：サロベツ原野<湿原と火山灰>。「道北の自然を歩く」，北海道大学図書刊行会，22-31（1995）
- 3) 札幌管区气象台：北海道の気候1995年1-12月版，（財）日本気象協会北海道本部，（1995）
- 4) 稚内開発建設部サロベツ総合調査事務所：泥炭の工業利用。サロベツ開発のあゆみ，42pp.（1969）
- 5) 西川洋子・宮木雅美・堀繁久：天塩川下流域 植物。「すぐれた自然地域」自然環境調査報告書，北海道環境科学研究センター，89-95（1994）
- 6) 湿原生態系保全のためのモニタリング手法及び農用地からの影響緩和方策の確立に関する研究委員会：サロベツ湿原の植生。湿原生態系保全のためのモニタリング手法の確立に関する研究，（財）前田一歩園財団（環境庁自然保護局業務委託），34-36（1995）
- 7) 梅田安治・井上京：泥炭地湿原の保全対策工法（続）-湿原としての植生誘導-。土地改良北海道 13，（1992）

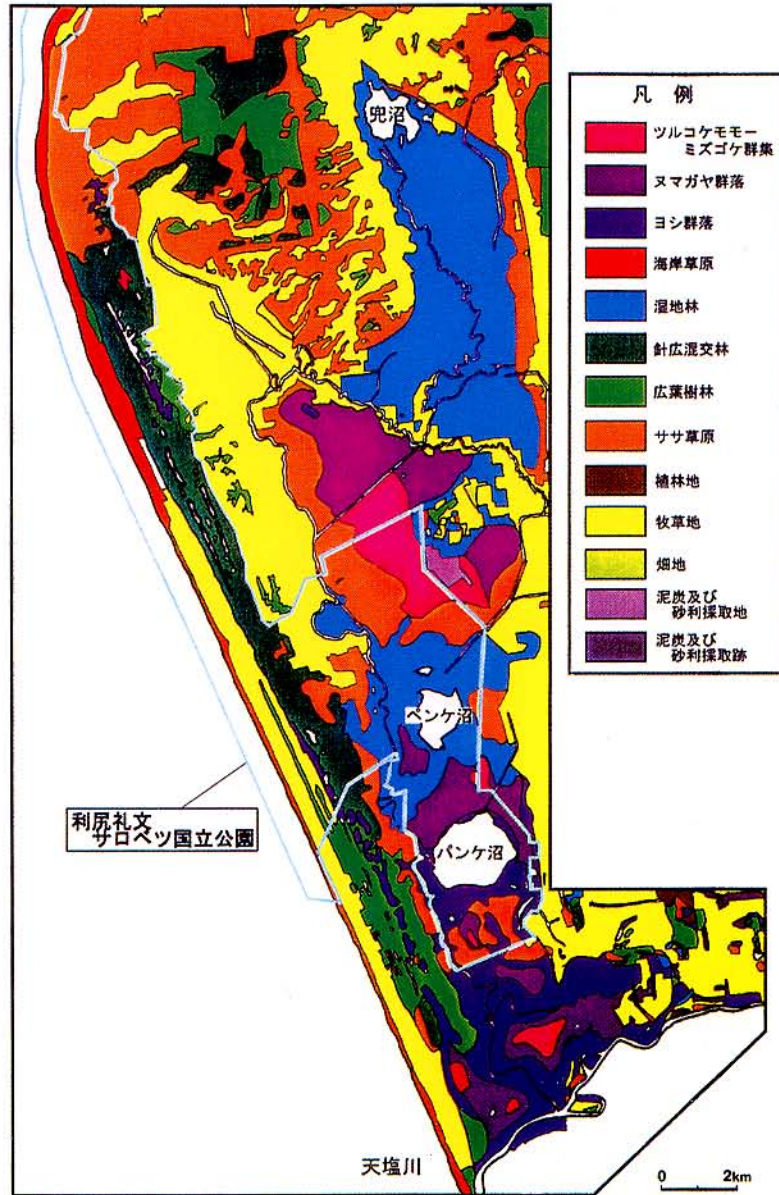
Vegetational change in Sarobetsu Mire for the last 25 years

Yoko Nishikawa, Masami Miyaki and Shigehisa Hori

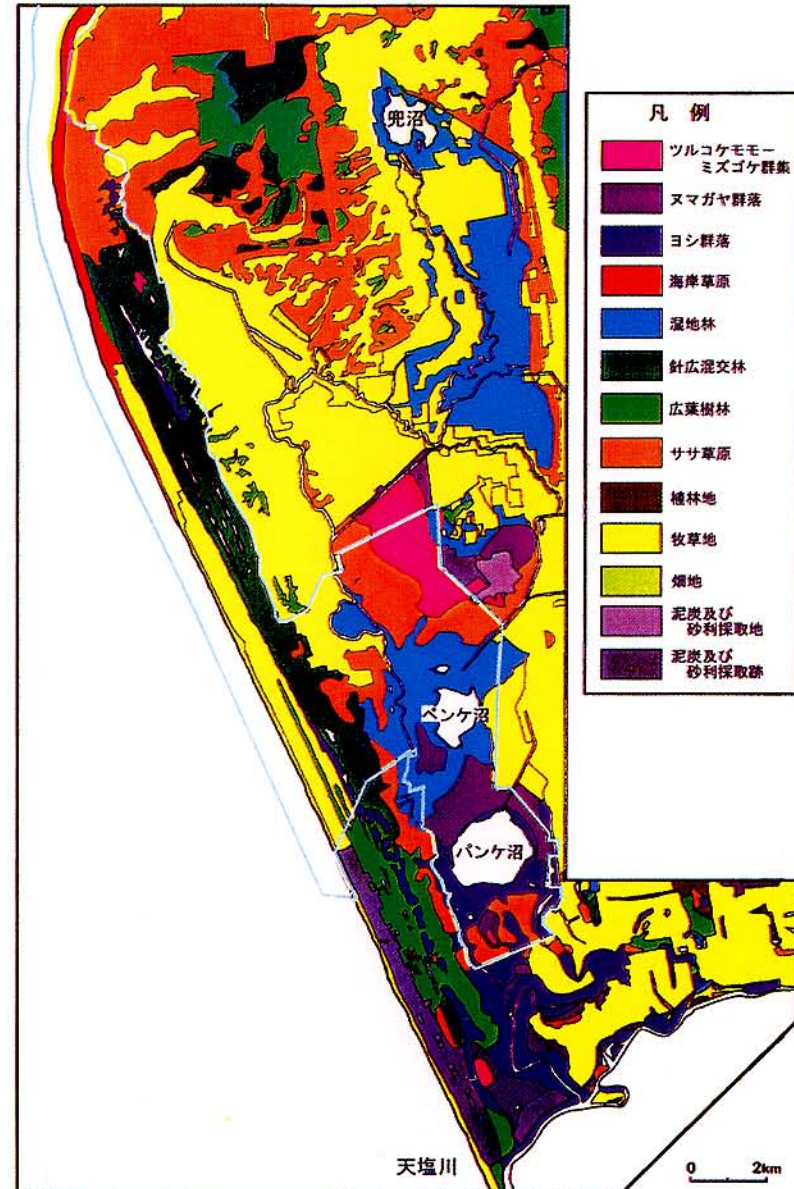
Abstract

The vegetation in Sarobetsu Mire and its change for the last 25 years were investigated to establish the wetland conservation plan. Vegetation maps of 1970 and 1995 were made to compare the areas of each vegetation types. Although many meadows had been developed before 1970, some of large wetlands had remained outside the national park. The wetland area was lost about 27% for the last 25 years (1970-1995), and the area of meadows increased and extended to the boundary of national park. Invasion of *Sasa palmata* and disappearance of sphagnums were seen at the dryer sites in wetland. At the bog in Kamisarobetsu, herb and shrub species which grow in dryer grassland invaded to the sites where the coverage of sphagnums was low, while some rare bog plants grow on the sphagnum cover. We discussed that the wetland ecosystem should be conserved by insurance of the area includes all vegetation types in wetland and buffer zone around it, and the vegetation at dried wetland should be restored by the control of water level and the removal of invaded plants.

サロベツ湿原植生図 (1970年)



サロベツ湿原植生図 (1995年)



付図1 1970年及び1995年におけるサロベツ湿原植生図